

(91)

氏名(生年月日)	ヨシ イ カツ ミ 吉 井 克 己
本 籍	
学位の種類	博士(医学)
学位授与の番号	乙第1338号
学位授与の日付	平成5年1月22日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の単位論文提出者)
学位論文題目	膵島細胞腫瘍の臨床病理学的研究一特に良悪性鑑別診断について一
論文審査委員	(主査)教授 羽生富士夫 (副査)教授 笠島 武, 高桑 雄一

### 論 文 内 容 の 要 旨

#### 目的

膵島細胞腫瘍の良悪性の鑑別は、従来、転移や他臓器浸潤がないかぎり困難とされてきた。本研究は膵島細胞腫瘍の良悪性の鑑別診断の可能性について、臨床的、病理学的に検討した。

#### 対象および方法

教室で経験し、詳細な臨床病理学的検討のなされた膵島細胞腫瘍19例を対象とし、他臓器浸潤または遠隔転移、リンパ節転移の認められた9例を悪性群とし、その他10例を対照群とし両群を比較検討した。

臨床的検討事項は、年齢、男女比、発生部位、臨床症状、腫瘍マーカー、腫瘍の大きさ、および超音波検査(US)、computed tomography (CT)、血管造影、ならびに内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)の画像診断であり、組織学的検討事項は、光学顕微鏡および画像解析装置(PIAS社 LA-500/PA)を用いて検討した構造異型、細胞異型の2点である。

構造異型は、光学顕微鏡を用いて細胞配列、被膜の有無、被膜浸潤、間質の多寡、腫瘍内出血、および脈管浸潤を検討した。細胞異型は、画像解析装置を用いて核長径、核短径、核面積、核円形度、核・細胞面積比(N/C index)を計測し、平均値を求め比較検討した。

#### 結果

1. 臨床症状では、黄疸は悪性群で4例(44%)に認めたのに対し、対照群では全く認めず有意差が存在した( $p < 0.05$ )。また、腫瘍の大きさが5cm以上の3例は全て悪性群であった。しかしながら年齢、男女比、

発生部位、腫瘍マーカーに関しては、二群間に差はなかった。血管造影では、悪性群では血管の不整狭窄や断裂所見が6例(67%)に認められ、ERCPでは、膵管または胆管の狭窄は悪性群8例(89%)にみられたが、対照群ではこれらの所見は全く認めず有意差が存在した( $p < 0.01$ )。

2. 構造異型の検討では、細胞配列、被膜の有無、間質の多寡、腫瘍内出血では二群間に差はなかった。一方、悪性群で被膜浸潤は6例(67%)、脈管浸潤は6例(67%)に認めたが、対照群ではこれらの所見は1例も認めず有意差が存在した( $p < 0.01$ )。細胞異型の検討では、核長径、核短径、核面積、核円形度、N/C indexはいずれの検討項目も二群間に有意差を認めた( $p < 0.01$ )。

#### 考察および結論

1. 膵島細胞腫瘍の良悪性の鑑別診断について、臨床症状では黄疸が悪性の指標として有用であった。画像診断では血管造影の不整、狭窄像ならびに、ERCPにおける膵管または胆管の狭窄所見がそれぞれ有用であった。

2. 光顕観察による構造異型では、被膜浸潤ならびに脈管浸潤が、また画像解析による細胞異型では、核長径、核短径、核面積、核円形度、ならびにN/C indexが悪性の指標として有用であり、とくに細胞異型からの良悪性鑑別診断の可能性が示された。

## 論文審査の要旨

膵島細胞腫瘍の良悪性鑑別は臨床的、病理学的に困難で、悪性度の低い腫瘍と位置づけられてきた。

本研究は19例という比較的多数の膵島細胞腫瘍切除例を臨床病理学的に検討し、悪性例では浸潤傾向が強く、血管、膵管、胆管に高率に浸潤しうること、また画像解析装置を用いた細胞異型の計測から良悪性鑑別が可能であることを明らかにしたもので、临床上、学術上価値あるものと認める。

### 主論文公表誌

膵島細胞腫瘍の臨床病理学的研究—特に良悪性鑑別診断について—

東京女子医科大学雑誌 第62巻 第10号  
915-922頁（平成4年10月25日発行）

### 副論文公表誌

- 1) Cis-platin が著効を示した食道癌肝転移の1例. 癌と化療 12 (11): 2216-2221 (1985) 吉井克己, 鈴木 茂, 井手博子, 遠藤光夫, 他
- 2) 十二指腸に脱出した胃体部平滑筋腫の1例. 消内視鏡の進歩 33: 219-222 (1988) 吉井克己, 戸田一寿, 内田泰彦
- 3) 術前 ERCP 施行して診断しえた胆石イレウスの1例. 外科治療 59 (3): 349-351 (1988) 吉井克己, 野上 厚, 野方 尚, 原田昌弘, 尾原徹司
- 4) 腸重積を呈した原発性回腸癌の1例. 日臨外会誌 49 (12): 2346-2350 (1988) 吉井克己, 野

上 厚, 野方 尚, 原田昌弘, 尾原徹司

- 5) 術前診断が困難であった膵頭部癌と膵内胆管癌の同時性重複癌の1例. 日消病会誌 86 (9): 2260-2264 (1989) 吉井克己, 今泉俊秀, 三浦 修, 中迫利明, 長谷川正治, 小形滋彦, 吉川達也, 中村光司, 羽生富士夫, 大網 弘
- 6) 画像診断および PTCS 下生検組織診で膵頭部癌と鑑別が困難であった慢性膵炎の1例. 胆と膵 10 (5): 895-901 (1989) 吉井克己, 今泉俊秀, 三浦 修, 中迫利明, 長谷川正治, 藤田 徹, 小形滋彦, 吉川達也, 中村光司, 羽生富士夫
- 7) Quick IRI 法にて術中完全摘出が確認された Insulinoma の1例. 日臨外会誌 52 (1): 155-159 (1991) 吉井克己, 今泉俊秀, 鈴木 衛, 中迫利明, 長谷川正治, 小形滋彦, 小松水二, 原田信比古, 木村 健, 羽生富士夫, 上野恵子, 磯部義憲, 野村武則, 出村 博